



※ 島田療育センター(多摩)の企画・イベントです。詳しくはホームページをご覧ください。

第18回 公開シンポジウム

『重症心身障害児・者施設の未来と私たちが進む道』

基調講演：宮田 章子 氏 (さいわいこどもクリニック 院長)
話題提供：小保内 俊雅 氏 (多摩北部医療センター 小児科部長)
和田 慎也 氏 (東京都 教育庁指導部 主任指導主事)

日時：平成31年 2月16日(土) 13:00~16:30

会場：島田療育センター(多摩) 厚生棟

定員：100名 (事前申し込み制、参加費：お一人 500円)

内容：東京・多摩地域における「ご本人・家族の一番近くで命を支える在宅支援の実践」や「在宅生活を支え、より充実させるための支援」について、講師の方々よりご報告いただき、わが町が進むべき道や当センターが地域で果たすべき役割を模索・検討する機会にできればと思います。

* お申込み方法は、今後ホームページ等でお知らせします *

パート2

島田療育センターイベント情報 メルマガ会員募集中!



- ①空メールを送信
QRコードを読み取り、空メールを送信してください。
- ②確認メールに返信
リクエスト確認メールが届きますので、そのまま返信してください。(Googleグループの機能を利用しているため、Googleからのメールが届きます。)
- ③登録完了!
参加完了のメールが届き、登録完了となります。

地域療育等支援事業のご案内

- ①外来療育等支援事業(療育相談)
運動面やことばの発達、集団生活にうまくなじめないなどのご相談に応じます。
- ②施設支援一般指導事業
発達のご心配や障害のある方を受け入れておられる地域施設、機関職員の方を対象にご相談に応じます。
- ③訪問療育等支援事業(訪問相談)
地域施設や家庭へ赴いて、健康診査や介護指導などを行います。 **費用は 無料です**

窓口は「支援部」 Tel. 042-374-2101(直通)

OT科講習会

第2回『どうしておはして むずかしいの?』

日時：H31年 1月 12日(土) 10:15~11:30

会場：バルテノン多摩 4階 第2・3会議室

対象：就学前後の年代のお子さんをもつ保護者

定員：20名 (事前申し込み制、参加費：無料)
* 託児のご用意がありません。ご了承ください。

講師：島田療育センター 作業療法士

内容：お箸を上手に持てない、上達しない、変な持ち方をしているつまめない...等のお子さんのお悩みに向けて、指先の力を育てる具体的な遊びや取り組み方をご紹介します。

編集後記

先日お花屋さんでポインセチアを見かけました。赤や白、ピンクなど様々な色があって、クリスマスシーズンの到来☆を感じました。紅葉が終わると木々は少し殺風景になりますが、調べてみると冬は意外鮮やかな花木がたくさんあるんですね。シクラメンやクリスマスローズ、クレマチス、パンジー、マーガレット、シンビジウム他にも色々…。先日「花よりコロッケ」を選ぶCMを見て、自分のことかと笑ってしまいましたが、たまには傍らに生花を置きたいと思っています。(市川)

編集：社会福祉法人 日本心身障害児協会
島田療育センター 支援部
住所：〒206-0036 東京都多摩市中沢1-31-1
電話：042-374-2071 (代表)
E-mail：Info-room@shimada-ryoiku.or.jp
URL：http://www.shimada-ryoiku.or.jp

第13回 心理講演会 『発達障害の子どもの育ちを支えるアプローチ』

～乳幼児期から成人期までの特性を理解し、
家族・地域で支援するために～

講師：市川 宏伸 先生 (児童精神科医)

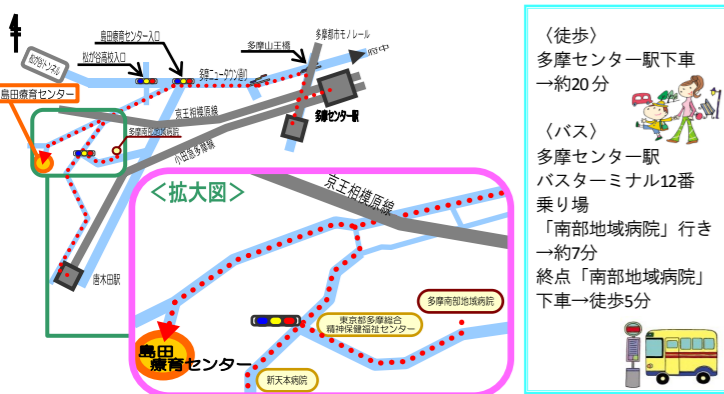
日時：H31年 1月 19日(土) 10:00~12:30

会場：島田療育センター(多摩) 厚生棟

対象：保護者、教育・保育関係者、地域の支援機関の方等

定員：135名 (事前申し込み制、お一人 1,000円)
* 託児のご用意がありません。ご了承ください。

内容：発達障害がある子どもたちのライフステージに応じた特性の理解や支援方法について、支援者として、そして父親として、豊富な経験をお持ちの市川先生にお話しいただきます。家族や学校、地域でつながりあい、私たちができることを一緒に考えていきましょう。



発行者 島田療育センター
院長 木実谷 哲史

ティーチャートレーニング ご報告

第6回目となる『ティーチャートレーニング』を8月6日、7日の2日間で開催いたしました。この講座は教育や保育に携わる先生方を対象とし、発達障害など特別なニーズのある子どもたちへの具体的な支援方法を、応用行動分析的な視点から考える連続講座です。今年は、小学校教員、幼稚園教諭、保育士など、様々なお立場の10名の先生方がご参加くださいました。中には、「さらに支援方法を学びたい」と二度目の参加をしてくださった先生もいらっしゃいました。

初日は、当センターの野村医師による発達障害の子どもたちの特性についての講義より始まり、子どもたちが日常生活の中で経験しやすい「読み書きの苦手さ」「注意を向けることの難しさ」「不器用さ」といったつまずきや、その際に生じる困り感を疑似体験を通して知っていただきました。その後、心理判定員から、客観的に行動をとらえ観察する方法や、行動の意味をさぐる機能アセスメントの方法、効果的なほめ方などの支援方法について講義を行いました。2日目の事例検討では、教室から飛び出してしまう子どもや午睡の時間に起きている子どもへの対応について、「行動支援シート」に沿って行動の意味を考え、支援方法についてアイデアを出し合いました。

ご参加いただいた皆様からは「疑似体験は驚きだった。自分自身の子どもに対しての声かけを改めて振り返った」「行動

を分析することで、教員や介助員で共通理解をし、指導の仕方を統一できそう」といったご感想をいただきました。また、「トレーニングの中で検討した支援方法を実践してみて、結果どうなったかを考える機会がほしい」とのご要望もいただきました。今回のトレーニングが、先生方の教育や保育の場のさらなる充実の一助になることを願ってやみません。ご多忙の中、また夏の厳しい暑さの中、2日に渡りご参加くださいました先生方に心より御礼申し上げます。ティーチャートレーニングは来年度も開催を予定しております。なお、保護者の方を対象とした連続講座である『ペアレントトレーニング』も年に2回開催しておりますので、詳しくは掲示やHPをご覧ください。皆様のご参加をお待ちしています。

(心理判定員 眞田 恵)



ご参加くださった先生方同士のグループワークの様子



小学生放課後活動「S-フレンズ」のご紹介

小学生放課後活動『S-フレンズ』では、集団活動や友達との関わりについてサポートを必要とする小学生を対象に“ソーシャルスキルトレーニング(SST)”を中心とした活動を行っています。SSTとは、実際の対人場面や社会場面が必要とされる社会的行動や、コミュニケーションスキルを学んでいくプログラムのことです。

昨年度までは土曜日に活動を行っていましたが、運動会等の行事や学校公開が増えることが増え、今年度からは低学年は木曜日、中学年以上は水曜日に、いずれのグループも16時から17時半まで活動を行っています。平日になると参加が難しくなるのでは、とのお声もありましたが、それでも多くのお申し込みをいただき、多摩市、八王子市だけではなく、町田市、日野市、稲城市、国立市といった地域にお住まいのお子様もご参加されています。

活動内容は、それぞれのお子さんの社会的行動の評価から始まり、より適切な行動を段階的に習得できることを目指し

た運動活動や相談活動に取り組んでいます。運動活動では、体を使ったゲームを行う中で、相手の動きを見て友達と動きを合わせることや、掛け声をかけること、応援をすることなどを練習します。また、勝敗があるゲームに参加する中で気持ちと行動をコントロールできるようになることが大きな狙いとなっています。相談活動では、推理ゲームやグループで行う活動など、様々なテーマについて相談を進めます。適切な意見の伝え方や尋ね方、意見の調整方法について、大人が示すモデルや手順表を手がかりにしながら、意見のやり取りをする練習をします。

スタッフは、お子さん達に「楽しかった!」「また来たい!」と感じてもらえるようなプログラムであること、お子さんが適切な行動をすることができた際には、「できた!」という成功体験になるよう「いいね!」「えらい!」とどんどん褒めることを心がけています。ご興味の有る方は、ぜひ支援部までお問い合わせください。

(臨床心理士 足立 実)

わいわい祭り2018

島田療育センター最大のイベントである“わいわい祭り”。名物であるフィナーレのナイアガラ花火を実施する場所には8月中旬頃から3匹のヤギを開放し草むしりを手伝ってもらったり、各部から“準備委員”を選出して大まかな内容を決めて各部で担当となったところを進めていくという初物づくしでしたが、9月8日(土)に無事に開催することができました。今年“入所利用者様や外来利用者様、ボランティアの方、地域の方、ご協賛くださった方、職員、皆が主役、全員で楽しもう”ということで進めていきました。ここ数年好評の模擬店コーナーはメニュー4種類に増やすことができ、フードエリアは大盛

況でした。恒例の各出張イベントや和太鼓と花火のコラボレーションは見ている我々に勇気を与えてくれました。開催中に雨が降ったり止んだりの時間もあつたのですが、スケジュール通り進めることができました。

わいわい祭りが終わる毎に感じるのですが、わいわい祭りはご参加くださった皆様と共に作り上げるものであることを強く感じます。当日見る事のできた皆様の笑顔は我々にとってとても大きな活力になっています。今回はお祭りにご参加くださった団体様からのお声を掲載させていただきます。

ご協力くださった全ての皆様に感謝し、お礼を申し上げます。ありがとうございました。(社会福祉士 湯本 和秀)



参加団体様からのメッセージ



和太鼓「りんぐ」です。人との繋がりを大切に、支援を必要としつつも人として持つ純粋な心と才能で障害者、健常者も関係なく、大好きな太鼓と共に成長し続けたいことを目指しています。昨年に続き演奏の機会をいただき嬉しく思います。

5歳の息子は0歳から島田療育センターにてお世話になっております。18回の手術を受け変わりゆく様子に適切な指導をしていただき感謝しております。当日雨が降ってしまい花火とのコラボが出来なく残念でしたが、花火を見る皆さんの笑顔がとても素敵でした。一緒に参加させていただきありがとうございました。



今年もわいわい祭りにお招きいただきありがとうございました。**社会福祉法人時の会**では、**ぐりーんぴーす工房**の「こだわりの焼き菓子」と、**多摩うどんぼんぼ**の「冷やしうどん」の販売で参加させていただきました。毎年スタッフの皆様のキビキビとした動きに感激し、準備時のお心配りに感謝の気持ちで一杯です。

今年も多くのお客様が来場され、出店ブースも大盛況でした。イベントブースでは、毎年趣向を凝らしたゲームや企画がいっぱい。利用者さんも来場者の皆さんも楽しめる工夫に、私たち職員も教えていただくことの多い一日です。来年もぜひ皆様にお会いできることを心より楽しみにしています。



八王子市の堀之内で農業と養蜂を営む会社、**株式会社FIO(フィオ)**です！弊社は昨年開催された“わいわい祭り”にお呼びいただき、お野菜を販売させていただきました。島田療育センターは、ゆとりのある広々とした空間に、障がいのある無や重さにかかわらず生き生きとした暮らしがあることに先進性を感じたことを今でもはっきりと覚えています。

私達は農業を使わず地域で生産された有機堆肥を使った旬のお野菜と、多摩地域の里山の花々から集めた季節味を凝縮した芳醇な蜂蜜を作っています。今年の“わいわい祭り”では、“元気が出る野菜と蜂蜜”をお届けしました！これからも皆様方とお会い出来ることを楽しみにしております！



NPO法人filo(フィーロ)は、今年で3回目の出店となりました。たくさんのお客様への販売の機会であり、また当事業所および自主製品を地域の皆様に宣伝できる貴重なチャンスだと、職員一同いつも張り切って参加させていただいています。

ハーブ製品はピーターも多く、お客様からの好評価がスタッフ・利用者ともに制作の大きな意欲となっています。ポップコーンの販売は、毎年行列ができるほどで、大盛況にとっても感謝しております。

島田療育センターは、これからも地域で医療・療育の相談ができる心のより処としてお力を貸していただければと思います。



日野市にあります**夢ふうせん**は、就労継続B型と生活介護サービスを行っている障害者サービス事業所です。生活介護サービスを提供している風グループでは、開設当初より日野市支援事業として島田療育センターから医師や言語聴覚士や理学療法士、心理士を派遣いただき、様々なアドバイスをいただいております。

5年前よりお祭りのご案内とパンを販売させていただいております。毎年盛りだくさんのイベントがあり、利用者さんやご家族、地域子ども達がお祭りを通して楽しんでいる様子を見ることができ、パンは毎年大好評をいただいており、完売しています。たくさん購入して下さるお客様やパンフレットを手に「どこにあるの？」と聞いて下さるお客様、「八王子東で見たことある～」と言って購入して下さったお客様もあり、他市ではありますが、つながりを感じることができました。ありがとうございました。今後ともよろしく願いいたします。



Q こんときどうしよう? 発達相談Q&A

Q 乳幼児期の子どもには、どのようなオモチャを選んだら良いでしょうか？ 選ぶ際のポイントや遊び方の工夫はありますか？

A 親御さんから聞かれる質問は様々ですが、「赤ちゃんらしいオモチャはあるけれど、どんなオモチャを選んだら良いですか？」と聞かれることがあります。

まずはお子さんが心地よいと感じるもの、例えば音が鳴る物、光る物、身体全体が揺れること…といった物や感覚の中から1つでも、「あれ？」とお子さんが気づいたり反応したりするものがあれば、そこからオモチャを広げていくことにつながっていきます。また、どんなことが好きなのか？どんなことなら受け入れが良いのか？ということも気にして、お子さんの様子をよくみてみましょう。

そしてオモチャを介してお子さんやり取りを拓げていくことで、親御さんも遊びのヒントを受け取っていきます。例えば光るオモチャに視線をじっと向けているお子さんなら一緒に手をとってボタンを押してみる、「押したら光るね」と声かけが始まり、「赤色が好きなのかな？、黄色かな？どっちの色が好きなかな？」…といった具合です。スイッチを掌で押してみた後は足の裏で押してみようか？、押した時に、押した所が視界

に入っているかな？、姿勢は横向きの方が見やすいかな？、でも、横向きでスイッチに届きにくいからオモチャの置き方も考えよう…などと1つのオモチャからセッティングや手や足の感覚、視覚や姿勢の取り方へと遊びや取り組みが広がっていきます。そのお子さんの身体の特徴も踏まえながらの遊び方になりますがお子さんが楽しめる姿勢や、オモチャとの距離、見え方、親御さんと一緒に色々なオモチャを試してみることは遊びが広がるチャンスになります。

また歌が好きなら歌いながら、抱っこや身体全体を揺らす遊びが楽しめるかもしれません。何が好きなのかな？と意識しながらお子さんに見せたり触らせたり、聞かせたりしてみてください。様々な体験の中で見出されることもあります。その中にヒントになるものがあるかもしれません。

少し先ですがクリスマスの時期が近づいてきましたね。このようなポイントを頭の片隅に留めておいていただき、お子さんが楽しめそうな物を見つけたらサンタさんをお願いしてみても良いかもしれませんね。

(理学療法士 小野寺 早苗)

